

平成21年度鎌倉国宝館の運営及び施設管理の状況に関する点検・評価

平成21年度に行った個別事業の概要

運営状況

- ・平常展の他、年7回の特別展を開催し、観覧者総数は58,773人、観覧料総収入は21,890,930円で、前年度に比べ観覧者は871人、観覧料は705,930円、いずれも増加となっている。
- ・図書売払収入は1,998,470円で、前年度に比べ399,120円の増加となっている。
- ・魅力ある展示に努め、秋の特別展においては「大本山光明寺と浄土教美術 - 法然上人八百年大遠忌記念 -」を開催した。会期中には列品解説を3回、関連講演会を開催するなど、14,765人の観覧者があり、展覧会図録(販売部数1,200部)は、会期中に完売するなど、好評を博した。
- ・収蔵品のうち、県指定文化財「十二神将立像」(鎌倉国宝館蔵)の修理を行った。
- ・鎌倉の歴史資料として、鎌倉に伝わる古文書を翻刻(活字化)した、『鎌倉志料 第11巻 建長寺常住日記』を刊行した。

施設管理状況

- ・収蔵作品を大規模地震の被害から守るため本館彫刻展示場に免震設備を設置した。また資料を虫害から防ぐため殺虫燻蒸を行った。

平成21年度に行った個別事業の成果

運営状況

- ・県指定文化財「十二神将立像」(鎌倉国宝館蔵)すべての修理が完了し、収蔵物の展示資料としての充実が図られた。

施設管理状況

- 資料の修理、殺虫燻蒸、本館彫刻展示場への免震設備の設置により、収蔵作品の安全な保管・展示が図られた。

今後の課題(内部評価)

施設管理状況

- ・平成21年度に展示場南側の彫刻展示スペースに免震設備を設置したが、北側は未設置であるため、免震対策を検討する必要がある。
- ・平成21年度より、殺菌に対する効果もある酸化プロピレン製剤(商品名「アルプ」)を初めて使用した。殺菌効果については確認されたが、カビについては今のところ良好であるものの、なお継続的な観察が必要である。
- ・空調設備が設置後20年を経過し老朽化している。収蔵物の保管には良好な空調管理が必要であるため、大規模修繕等による対応が必要である。

鎌倉国宝館協議会委員の方からの意見(外部評価)及び意見に対する市の考え方・対応策(にて表示)

- ・博物館評価に際しては入館者数や費用対効果などが評価対象とされがちであるが、鎌倉の歴史的文化財を保護・展示し、その魅力や独自性を広く紹介することにより、文化財保護に対する意識の普及・啓発活動を行っていることについても評価すべきである。

ひきつぎ鎌倉の歴史的文化財を保護・展示し、その魅力や独自性を広く紹介することにより、文化財保護に対する意識の普及・啓発活動を継続し、より高い博物館評価を得られるように努める。

- ・所蔵者としては、市が運営しているから安心して資料を寄託している。

今後も鎌倉市が直接運営することで、安心して所蔵資料を寄託してもらえるような事業運営に努める。

- ・地域の文化財を守っていることを、もっとアピールすべきである。

平成22年度の秋季特別展において、修理が終了した所蔵品(大町辻薬師堂旧蔵、県指定文化財)を展示し、地域の文化財を保護することの重要性について強調し、観覧者の理解を得た。